

## 胆振管内「フードドライブ」本格スタート

家庭で余った未使用の食品を持ち寄り、生活が苦しい世帯や地域食堂・子ども食堂などに届ける「フードドライブ」と呼ばれる取り組みが胆振管

内でも本格的に始まった。食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」の削減にもつながるため注目を集めている。  
(野村英史)

# 余った食品生活困窮者へ



集まった食品は期限別に仕分けし、必要とする家庭などに届けられる

## 月曜レポート

内15カ所に食品の持ち寄りの拠点を開設した。同NPOの仕組みを一般家庭に広げたもの。農林水産省の推計では2016年度(平成28年度)、64.3万トンの食品が捨てられ、食糧ロスに相当する。うち家庭分は約半分に当たる29.1万トン。国連世界食

## 「もったいない」を「ありがとう」に

NPO法人ワーカーズコープ室蘭事業所(室蘭市)のフードバンクいふり(同)は2月24日、胆振中西部7市町の社会福祉協議会や民間事業者などと連携して域

世帯人数分。週1回に限っているのは、あくまで自立を促す取り組みのため。同NPOの担当、木内卓さん(63)は「支援を必要としている家庭は多い」と話す。

フードドライブは、フード(食べ物)とドライブ(活動)を合わせた言葉。1960年代に米国で始まり、企業などから不要な食品を集め、必要とする家庭などに届ける。胆振管内の社会福祉協議会(東京)によると、フ

協や障害者福祉事業所など17団体と連携して、地元企業や行政などから集めた食品を初年度は延べ357件、19年度はこれまでに延べ1200件を超える生活困窮世帯に提供した。需要は拡大傾向にあるほか、支援する域内の子ども食堂・地域食堂が年内に倍増する見通しで食品の不足が見込まれることから、一般家庭の協力を仰ぐことにした。

木内さんは「活動を広く知ってもらい、支援を充実させたい」と盛り上がり期待している。

### 協力するには

●必要とされる主な食料品 米や乾麺、缶詰、レトルト・インスタント食品、菓子、粉ミルク、調味料など。  
●注意点 賞味・消費期限が1カ月以上残っている常温で保存できること。

●寄付の方法 白老町以西7市町にある次の拠点に持ち寄る。◇室蘭市「母子福祉会、ピリカびりか、雑貨ミニマム、ふれあいサロン」ほつとろ、商業施設ハック、室蘭音楽学園本部事務局、日中活動センターcafeにて、コミュニティスペースタンネ(5月以降)◇登別市「地域食堂ゆめみくる」◇伊達市「社会福祉協議会、だて地域生活支援センター」◇洞爺湖、豊浦、壮瞥、白老町「各町の社会福祉協議会」